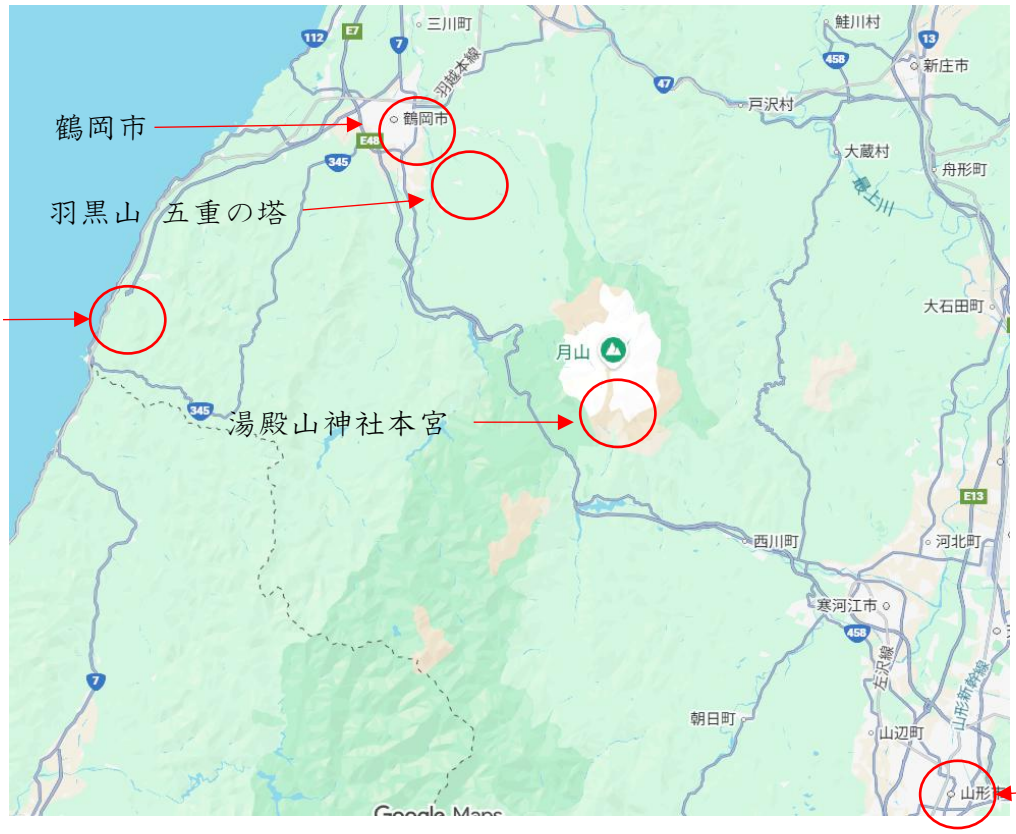
第９回　研修報告

2025年10月23日（木）～24日（金）参加11名

山岳信仰と地域

出羽三山と鶴岡の歴史的建造物



山岳信仰

山からは**水**が流れ、様々な道具や家屋に使える**木材**が得られ、動物や植物という**食料**も豊富にありました。さらには**鉱物**も産出され、火山の近くでは温泉も湧きます。時には森林火災で「**火**」を得る事もあったでしょう。このように人々の生活を支える多くのものが、**山**からもたらされていたのです。

いつしか生活の基盤を支える山に対して感謝の念を抱くのは、自然だったと言えるでしょう。

やがて山への畏敬の念は、自然現象を神の成せる技として認識していきます。そして山は、神が降臨する特別な場所として捉えられるようになったのでしょう。

研修では,初日に庄内地方の中核都市である鶴岡市の建築物を見学し、翌日に山岳信仰の聖地、出羽三山の羽黒山（現在）、月山（過去）、湯殿山（未来）を巡り、修験者の想いに肉薄しました。

第９回 研修　テーマ「出羽三山と鶴岡の歴史的建造物」

10/23	山形駅（集合）	→	鶴岡市の歴史的建造物 致道博物館・藩校・丙申堂	→	日本海に沈む夕日	→	あつみ温泉 萬国屋
10/24	いでは文化記念館	→	五重の塔 爺杉	→	ななかまど亭（昼食）	→	湯殿山神社　本宮	→	山形駅（解散）



・致道博物館

致道博物館は1950（昭和25）年、旧荘内藩主第16代酒井忠良氏が地方文化の向上発展に資することを目的として、土地建物および伝来の文化財などを寄附し、財団法人が設立されました。 庄内の暮らしや文化、建築物など貴重な資料を見ることが出来ます。 残そうという想いと、受け継ごうという想いが無ければ、見ることができません。



・丙申堂

明治29年丙申の年、武家屋敷跡に風間家七代当主・幸右衛門によって住居と営業の拠点として建てられた丙申堂は、薬医門（約200年前の武家門）のある商家として当時の繁栄ぶりをよく残しています。**約4万個の石が置かれた石置屋根が特徴**で、主屋を中心に4つの蔵や広大な板の間と大黒柱など、豪商の往時の面影を今に伝える貴重な歴史遺産として国指定重要文化財にも指定されています。 屋根の葺き替え作業の動画を見せてもらいました。



・羽黒山　五重の塔

国内最北端にある「国宝」五重の塔。神仏習合の時代には、滝水寺の伽藍がありましたが、廃仏毀釈により五重の塔を残して、全て廃棄されました。
現在の塔は、約600年前に再建されたもの。高さ29m、三間五層柿葺（こけら）素木造。
近くには、樹齢1000年、周囲10mの巨大杉「爺杉」があります。
神域に入ると、明らかに空気感が変わります。





・湯殿山神社　大鳥居

一般車の乗り入れはここまで。この先は専用の「参拝バス」しか通行できません。
出羽三山は、羽黒山（現世）～月山（過去）～湯殿山（来世）となっています。山伏は白装束をまとい、月山で死したのち湯殿山で再生する「生まれかわる」ために、修行を行いました。



・湯殿山神社　本宮

この先は神域のため撮影は禁止され、見聞きしたものを他の人に言ってはなりません。また他の人は神域の様子を聞いてもいけません。「語るなかれ、聞くなかれ」
自然崇拝・山岳信仰の原点がここにあります。紅葉がすばらしい。



・ご招待
東北農林専門職大学
教授　藤本 登留　様



高岡市内を案内頂いた
地元のガイドさん
絶妙トークで楽しませて
くれました